

編集後記

今年度の機関誌を編集するに当たっての私どものミッションは“上質な”機関誌を“年間2回”発行することであった。本誌が上質さを保つには、研究者からより多くのご投稿をいただかねばならず、そのためには、年間2回の発行が必要だと思われるからである。しかし、これはなかなかの難題であった。上質な機関誌の編集にはレフェリー、編集委員の長期に亘る査読という厳正な審査が必須で、簡単には合格作品は生まれない。一方、発行回数を重視するならば、審査プロセスの短縮化・平易化により、多くの合格作品を生まねばならない。つまり、質を保つと発行回数の増加が約束できず、発行回数を増加すれば質の保証が危惧されるのである。そして、この難儀をクリアするには圧倒的な投稿が必要なのだが、そのためには発行回数の増加が必要なのである。

機関誌編集は迷路に入ったかの感があったが、今回、このパラドックスを乗り越え、第7号を3月に発行する運びとなった。これで念願の“上質な”機関誌の“年間2回”の発行が実現した。関係者の皆様のご厚意とご協力に御礼申し上げたい。

今回、編集委員会が最終的に採用した投稿論文は1本である。他に5本の投稿をいただいたが、残念ながら合格とならず、次号、もしくは再チャレンジということになった。その貴重な合格作品は「健康保険組合における老人保健拠出金の現状」(安部 由起子)であり、これは、高齢者医療制度創設の議論がされている今日、まことにタイムリーで、改革議論に貢献する論文のように思われる。

また、前号から医療経済研究機構が行った代表的なプロジェクトを論文形式にまとめて報告しているが、第7号の研究報告は、価格弾力性の研究である。この研究は学習院大学の南部教授を座長として、2年間実施されたものである。その研究の中から、今回は4本の論文をご発表いただいた。医療費の価格弾力性に関して様々な視点からの実証研究論文である。いずれも医療制度改革の議論の礎となりうる秀作と思う。南部先生はじめ今回ご執筆された先生方の労に感謝を申し上げたい。

本誌も創刊以来6年を経た。その間、多くの方にご協力いただき、漸く編集システムも充実した。来年度以降も年間2号発行をする所存で、そろそろ成長期を迎えたく考える。今後とも各方面のご支援を心より願います次第である。

(編集事務局 前浜 隆広)